



令和3年8月12日～秋雨前線による

大雨災害に対する防災技術センター(中国技術事務所)の災害復旧活動その3

遠隔操縦装置（バックホウ用）による 災害復旧活動を実施しました。

令和3年8月18日、松江国道事務所管内 国道9号(380k200～381k200付近・出雲市多岐町小田)において道路の路面変状が確認され全面通行止めを行ったことを受け、令和3年8月20日から災害対策用機械(バックホウ用遠隔操縦装置)が出動しました。

今回は、松江国道事務所の指揮の下、8月31日まで稼働し、9月30日に帰還しました。

災害対策用機械派遣一覧

災害対策用機械	災害協定会社名*	会社所在地	期間	派遣先
遠隔操縦装置(輸送)	沼田建設(株)	広島県広島市	R3.8.20(往路) R3.9.30(復路)	島根県出雲市
遠隔操縦装置(取付)	(株)フジタ	広島県広島市	R3.8.20(取付) R3.9.29(撤去)	

* 災害協定会社名とは、「災害応急活動等に関する基本協定」を締結している会社名をいいます。

遠隔操縦装置の輸送・組立を行っていただいた会社は「災害応急活動等に関する基本協定（以下「災害協定」）」を締結している建設会社、機械設備会社及び協力会社の皆様です。
災害が発生し災害復旧活動を行う際には、災害協定に基づき協力要請を行います。

災害協定締結業者は、本来の仕事を、急遽“やり繰り”して、社員を派遣していただいています。

特に、大雨の期間が長期化した中での遠方への支援となり、社内の調整が厳しい中ご対応いただきました。このようなご協力をいただきながら、災害復旧活動を行っています。

災害復旧活動（バックホウ用遠隔操縦装置）



事務所長による出発前のあいさつ



「急な要請にもかかわらずご協力いただきありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染、現場での作業に気を付けてお願いします。」

遠隔操縦装置の積み込み



遠隔操縦装置は、分解組立可能です。また、輸送・運搬できるよう軽く梱包しワンボックス1台で輸送が可能のため遠方の災害復旧現場へも活用できます。



◀遠隔操縦装置
梱包状況

現地活動状況

遠隔操縦装置取付準備状況



今回は、より早く現地で復旧作業を行うため、輸送、装置の取付、操縦者への技術支援、バックホウの現地手配などは各協力会社が分担して行いました。各社の連携により迅速な対応を行うことができました。

現地到着後、直ちに組立開始！

遠隔操縦装置が現地到着後、組立作業を開始。

現地は真っ暗でしたが、松江国道事務所が準備した照明の下、遠隔操縦装置の組立や、操縦席周辺にある複数の配線接続など行いました。

遠隔操縦装置取付作業状況



遠隔操縦装置とは…

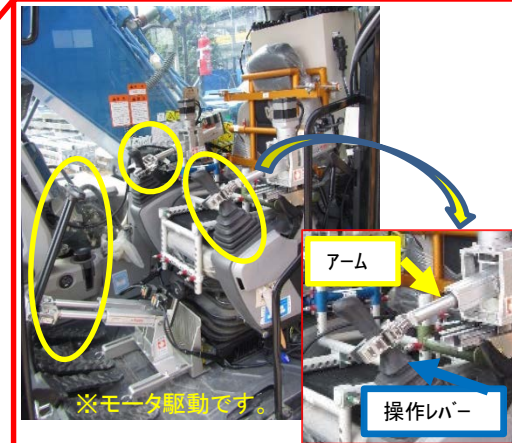
遠隔操縦装置をバックホウの操縦席に取付け、離れた場所から操作用無線機でバックホウの操縦ができます。二次被害の危険性がある現場で使用できる装置です。

遠隔操縦装置取付状況



遠隔操縦装置の取付作業は1時間程度で完了します。

現地では、取付が可能なバックホウの機種や規格などを事前に確認し、バックホウの手配をします。



通常は人が手や足を使ってレバーを操縦しバックホウを動かしますが、手や足の代わりに装置のアームをレバーに固定して動かします。

遠隔操縦操作状況



遠隔操縦距離は約150m



操作用無線機

無線機により装置のアームを動かします。無線機のボタンの配置は操縦席と同じ配置にすることでオペレーターが実際の操縦席と同じ感覚で操作できるように配慮しています。